

歓送迎会や仕事の打ち上げなどで、宴会を開く職場は多い。日程調整や店の予約、会計を担う幹事は、若手にお鉢が回ってくる。職場のみんなが楽しめる宴会を成功させる経験は、ビジネスのスキルアップにも通じる。面倒くさがらずに名幹事を目指したい。

「調整くん」「伝助」といったインターネット上の無料日程調整サービスを利用すれば、大人数のスケジュール調整も効率化できる。幹事がいくつかの候補日を設定し、各メンバーに「○」「△」「×」などの都合を書き入れてもらう仕組み。最も多くの人が参加できる日に決めればよい。

日程はトップ優先

候補日はあらかじめ部長、課長といった職場のトップの都合を聞いて設定するのが基本。子育て中の女性メンバーは子どもを預けたり、夫と相談したりする必要がある。スケジュール調整は早めに着手したい。参加メンバーが最多になる候補日が複数ある場合は、職場のトップに開催日を決めてもらうのが無難。

職場の飲み会

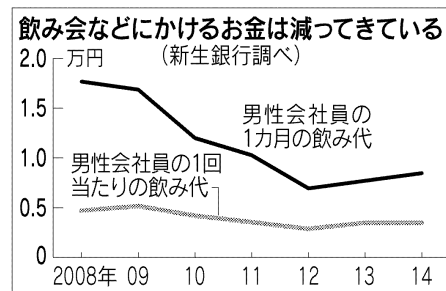
認められる幹事の心得

各メンバーの都合はすべてネット上で見られるので、幹事が勝手に決めると「どうして自分が参加できない日に決めたのか」という不満を感じる人が出かねない。会場は個室が望ましい。周りからの騒音が少なく、10人くらいまでなら、みんなでの話題で盛り上がる。あいさつなどもよく

座席の配置

女性に配慮

聞こえるため、幹事が仕切りやすくなる。L字型のテーブル席や、真ん中に大きな柱があるフロアなどはメンバー全員の顔が見えないので避けたほうがいい。もっとも、初めての店の席の配置などは詳細にはわからないし、下見をするにも時間とお金がかかる。そ



全員の顔見えるよう

座敷なら事前に連絡

ここで狙い目なのがランチ営業。キリンビールに勤める安藤毅さん(27)は「職場の飲み会で使えそうな店を見つけたら、まずランチで入ってみる。昼と夜で食材はあまり変わらないし、テーブル席や座敷、トイレなどもさりげなくチェックしている」と明かす。

倒なうえ、「脱いだブーツからむれた二オイがするのでは」と心配する人もいる。女性が多いなら、座敷はあまり勧められない。

トイレは男女別であることが最低条件。トイレから出たところで順番待ちの男性と顔を合わせると、とても気まずい。飲み会に詳しいリクルートライフスタイルの営業部長、有木真理さん(39)は「女性トイレに自由に使えるあぶらとり紙、綿棒、コットンなどが常備されていればなおいい」という。

会費は500円が目安

料理はコースで頼んでおきたいところ。店が忙しい週末などにアラカルトで注文すると料理が出るまで時間がかかりがちだし、予算管理がしにくいからだ。お酒が飲めない人が損をした気分にならないよう、飲み放題のソフトドリンクの種類が多い店がよいだろう。

飲み会の会費はそれぞれの職場で相場があるが、目

安として高くても1人500円までに抑えたい。新生銀行の調査によると、サラリーマンの飲み代は月8459円、1回当たり3483円が平均。職場の飲み会は「仕事の延長」という意識があるだけに、会費が5000円を超えると懐が痛みそうだ。

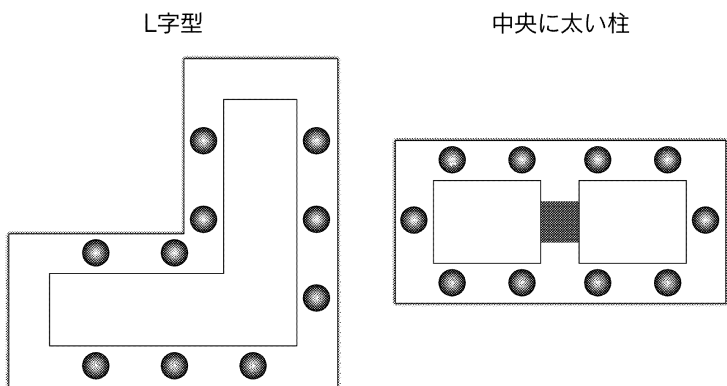
会費はどう集めたらいいか。店での会計時に現金を集めるのは、お釣りのやり取りなどが大変なので避けたい。美月さんは「事前徴収がベター。ドタキャンも防げる」という。ただ、職場のトップから新人までに一律の会費にはしにくい。誰からいくらもらうか、事前に配分する難しさはある。「課長、昨日はありがとうございました。ところで会計なんですが」。大手証券勤務の立花雅彦さん(仮名、27)は飲み会の翌朝、領収書を見せながら課長に耳打ちする。「ご苦労さん。これでいいかな?」と課長から渡されるのは決まって1万円札だ。

次に立花さんは「課長から1万円頂いたんですが」と、その下の上司のところも回り、残りのメンバーからは一律の会費を徴収する。事前徴収に比べて面倒だが、肩書による会費の配分は課長らが自分で決めてくれるので幹事は悩まなくてもいいわけだ。

全国に約300人の部下を抱える有木さんは「飲み会の幹事ができる人は仕事もできる」と指摘する。日程調整、店選びといった段取りから、参加者への気遣いまで、楽しい飲み会を演出できる名幹事は上司の目にも留まる。自分を積極的にアピールできるチャンスととらえて前向きに取り組みたい。

できる幹事の店選びのポイント

参加者全員の顔が見えない席レイアウトはNG



女性参加者への配慮を

トイレは男女別

座敷席は前日までに連絡

